

令和元年 12 月 4 日

富良野市議会議長 黒 岩 岳 雄 様

富良野市議会議員 後 藤 英知夫  
外 6 名

## 議員の派遣に関する報告書

このたび議員派遣の承認を受け、その結果を下記のとおり報告します。

### 記

- 1 富良野沿線議長会議員研修会
  - ( 1 ) 目 的 議会活性化及び議員の資質向上に資するため
  - ( 2 ) 派遣場所 占冠村
  - ( 3 ) 期 間 令和元年 10 月 11 日
  - ( 4 ) 派遣議員 富良野市議会議員 16 名
  - ( 5 ) 派遣内容 別紙 1 のとおり
  
- 2 道北支部議長会議員研修会
  - ( 1 ) 目 的 議会活性化及び議員の資質向上に資するため
  - ( 2 ) 派遣場所 美瑛町
  - ( 3 ) 期 間 令和元年 10 月 29 日
  - ( 4 ) 派遣議員 富良野市議会議員 15 名
  - ( 5 ) 派遣内容 別紙 2 のとおり
  
- 3 議会報告会
  - ( 1 ) 目 的 市民に開かれた議会の実現、市民の議会活動への参加を推進するため
  - ( 2 ) 派遣場所 富良野市内
  - ( 3 ) 期 間 令和元年 10 月 22 日～11 月 25 日
  - ( 4 ) 派遣議員 富良野市議会全議員
  - ( 5 ) 派遣内容 別紙 3 のとおり

## 別紙 1

### 1. 派遣内容

富良野沿線議長会議員研修会

講演・演題 人口減少時代の地方議会の役割

・講師 株式会社ローカルファースト研究所  
代表取締役 関 幸子 氏

### 2. 所 感

人口減少・少子高齢社会を迎え、国が平成 26 年に地方創生事業に着手し始めて 5 年が経過した。しかし、多くの自治体では、人口流出や少子・超高齢社会のさらなる進展など、依然として厳しい環境におかれている。地方創生をとおしてこれらの課題に立ち向かっていく中で、時代の変化をとらえ、これまでの考え方を打ち破りながら地方議会が果たす役割について講演を受けた。

まず、人口減少の背景に団塊ジュニア世代が結婚、出産をしなかったことがあげられ、「社会的に独身が認められたこと」「派遣労働法制定による非正規雇用が多いこと」「一人暮らしを支える仕組みができたこと」「養育費がかさむこと」の 4 点がその要因と考えられている。

これまでの地方議会が抱える課題として、チェックや執行部の監視に偏り政策提案が少ないことや新しい議員のなり手が参入しづらいこと、経済原則である資本の循環に関心がないことなどが指摘された。

今後の議会が果たす役割として、急激に変化する社会や制度に関心を持って議員自らが条例案を提出するなど新しい政策を提案することや、行政とともにまちづくりを行い、スピード感を持った意思決定を行うことが大事であり、そのためにも、いままでの考え方にとらわれない新しい発想で議会運営に臨み、人口構造に応じた政策が必要であると感じた。

早急に取り組むべきこととして、土地の登記を明確にして未利用地の利活用を図ること、意欲的な人材の確保と育成を行い人に投資を行うこと、住民の意識変革を働きかけることが必要との提言があり、第 2 期地方創生総合戦略に向けて、いま一度議会の役割を考える貴重な機会となった。

## 別紙 2

### 1. 派遣内容

#### 道北支部議長会議員研修会

- 講演 ・ 演題 障がい者の就労と高い作業工賃確保を目指して
- ・ 講師 社会福祉法人 江差福社会理事長 樋口 英俊 氏
- 講演 ・ 演題 グローバリゼーションの新時代
- ・ 講師 ジャーナリスト・北海道大学客員教授 久田 徳二 氏

### 2. 所 感

社会福祉法人江差福社会理事長の樋口英俊氏より、社会福祉法人を運営する立場から、「ノーマライゼーションの実践」と「福祉とは人間としての幸せを得ること」との考えを中心に置き、各種事業に取り組まれている経緯について講演を受けた。地域の人口約7,500人のうち、利用者、職員とその家族を含め、約10%が法人の関係者であり、社会で「働く」、働いたら「遊ぶ」、地域で「暮らす」の3つを法人運営の理念としながら、それぞれの障がいの特性を生かした就労支援事業に取り組まれている。また、授産事業の主力である災害用備蓄食品等の製造により、昨年度の就労支援売上高は13億円以上、就労継続支援A型、B型ともに月別作業工賃は全国平均を3万円程度上回るなど、労働の対価を高く設定し、徒労に終わらせない就労支援を行っている。障がい者が社会で活躍し皆が幸せになることを念頭に置き、グループホームに職員が同居しながら、地域とともに障がい者の生活支援に取り組まれている様子があった。

また、北海道大学客員教授でもあるジャーナリストの久田徳二氏からは、TPPによる北海道農業への影響や、食の安全性について講演を受けた。ジャーナリストの視点から、現在、日本の農業がおかれている環境や貿易協定によって受ける影響について触れながら、北海道に住む私たちの健康と暮らしを守るためには、「安全安心な食品の生産と地産地消」、「労働力と地域社会の担い手を確保し、地域と自国を大事にすること」と話され、本市においても、基幹産業である農業をしっかりと守っていく大切さを強く感じたところである。

## 別紙 3

### 1 . 派遣内容 議会報告会

### 2 . 開催日・会場・担当

| 開催日    | 開催会場          | 担当 |
|--------|---------------|----|
| 10月22日 | 未広コミュニティセンター  | 2班 |
| 10月23日 | 北の峰コミュニティセンター | 1班 |
| 10月26日 | 朝日会館          | 3班 |
| 10月28日 | 南コミュニティセンター   | 3班 |
| 10月29日 | 麻町児童センター      | 3班 |
| 10月30日 | 西地区コミュニティセンター | 2班 |
| 11月1日  | 布部会館          | 1班 |
| 11月5日  | 栄町コミュニティセンター  | 1班 |
| 11月6日  | 東春コミュニティセンター  | 1班 |
| 11月11日 | 布礼別集落センター     | 3班 |
| 11月12日 | 山部福祉センター      | 2班 |
| 11月15日 | 東山公民館         | 1班 |
| 11月17日 | 育良会館          | 3班 |
| 11月23日 | 鳥沼会館          | 2班 |
| 11月25日 | 東部児童センター      | 2班 |

担当班編成 1班：小林 裕幸、大栗 民江、宇治 則幸、  
家入 茂、佐藤 秀靖、水間 健太  
2班：本間 敏行、天日 公子、松下寿美枝、  
関野 常勝、後藤英知夫、黒岩 岳雄  
3班：渋谷 正文、宮田 均、石上 孝雄、  
大西三奈子、今 利一、日里 雅至